

今年度のテーマは「パーソン・センタード・ケアを生かした多職種連携」です。

令和4年度 みょうこう ケアフォーラム 通信



令和4年度 第1回みょうこうケアフォーラムを開催しました！

- 日 時：令和4年12月15日(木)18時30分～20時00分
- 方 法：オンライン開催
- 参加者：51名(介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等)

概要

昨年度のみょうこうケアフォーラムから学んでいる『パーソン・センタード・ケア』について、専門職が皆、実践につなげていくために、新井愛広苑の理学療法士である塚田絵里子さん、グループホーム新井の管理者である若月加奈さんから、事例を発表していただきました。

昨年度同様のオンライン開催でしたが、活発な意見交換が行われ、どのグループも中身の濃いグループワークとなりました。

実施後アンケートでは、参加者のほとんどが「日頃の支援を振り返る機会になった」、フォーラムの「内容に満足した」と回答しており、対人援助職としての大切な考え方を改めて学ぶことができました。

事例発表

①訪問リハビリテーション利用者の事例

《発表者》 新井愛広苑 理学療法士 塚田絵里子さん

②グループホーム入所者の事例

《発表者》 グループホーム新井 管理者 若月加奈さん



新井愛広苑 塚田さん

<事例概要>

- ・90歳女性、要支援2、独居、疾患：腰腰椎圧迫骨折など
 - ・希望：本人「腰痛が治ったら自分のことが自分でしたい」
家族「入浴の習慣をつけてほしい」
 - ・目標を決めて、訪問リハビリを開始。本人は入浴動作の練習も拒否なく行い、浴室環境を整えることにも積極的だった。
 - ・ただ、身体的には自宅での入浴は可能なものの、週2回のデイサービスでの入浴以外は、自宅で入浴していないことが分かった。
- ➡どのような感想を持ちましたか？



グループホーム新井 若月さん

<事例概要>

- ・92歳女性、要介護2、グループホーム入居者、疾患：認知症など
 - ・新型コロナ感染予防対策に伴い、ホールでの配席が変わったことで、席についての不満を訴えるようになった。配席は入居者同士の関係性も考慮しているため、職員で話し合っている。
 - ・不満が募っていく中で、「昼寝で使っている掛け物が見つからない」との訴えがあり、「誰かが部屋に入って持って行ったんだ。気持ち悪いわ」などと被害妄想が始まり、見つかるまで興奮される。
- ➡どのような対応を考えますか？

G W

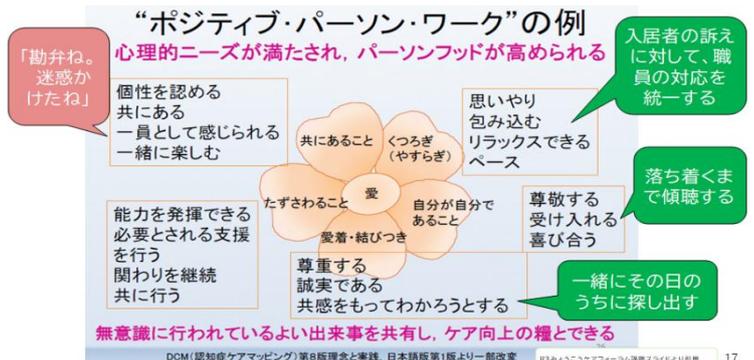
8グループに分かれ、自分だったらどのようにかわるか、パーソン・センタード・ケアを実践した体験など、それぞれの職種から意見交換してもらい、全体発表を行いました。

<グループワークで出た主な意見>

- ・本人の興味のあることや強みなどを生かし、サービスの導入を行えるようになりたい。
- ・時間の許す限り、本人の思いを聞き、寄り添えるようにしたい。
- ・本人の言動には、複合的な理由があることを踏まえ、本人の思いをよく聴くことが大事であると再確認した などの意見が出ていました。

事例のその後について

事例発表者の塚田さん、若月さんより、事例のその後について発表してもらい、パーソン・センタード・ケアの観点で対応できていたこと、改善が必要なことについて振り返りを行っていただきました。



まとめ

実行委員会の揚石先生からパーソン・センタード・ケアについてまとめていただきました。



[パーソン・センタード・ケアの考え]

■ パーソン・フッド

- ・ご本人が、一人の人として認められ、尊重されていると実感していることが大切。
- ・お互いに思いやり、信頼しあう、相互関係を含む考え。支援者が一方的に与える関係性ではない。

■ 信頼関係の構築(対等な立場)のために

- ・①しゃべりすぎない、②知ったつもりにならない、③自分の専門性や知識、経験に頼りすぎないことが大事。そのためには、謙虚な問いかけが必要。

■ 対人援助職として覚えておきたいこと

- ①本人と関わる人の関係性を重視
- ②支援者は肩書にこだわらず全人的な関わりを
- ③自尊心・価値観・心理的ニーズがより強められるようなサービス提供
- ④”できない部分を補う”のではなく、これからの生活について、本人の思いを言葉にすることを支援



専門職がチーム一体となって、さらに向上していけるよう、次回もケアフォーラムを企画していきますので、今後ともよろしくお願いたします！

